

## 「タイにおける新型コロナウイルス・ワクチン事情」

辻本 浩一郎

タイも日本同様、コロナの感染が収束せず、全国では2千人規模（5月15日時点）、バンコクでも1千人を超える規模で新規感染があり、諸規制が強化され、弊社も5月中は全面的に出勤停止となりました。

## ＜厳しい行動規制＞

県を跨ぐ移動の自粛や、マスクを付けないでいると最大2万バーツ（約7万円）の罰金を課せられる等の厳しさで、学校も休校となりました。お蔭で有名な交通渋滞も全く影を潜め、PM2.5による大気汚染も落ち着き、青空が広がっていますが、自宅に籠りがちとなり、精神衛生上はあまり良くない状況です。

## ＜ワクチン接種と調達＞

タイのプラユット首相は5日、ワクチンの国民への接種を月1,500万回のペースで進める目標を明らかにしています（5月15日現在）。ワクチンの配布、専用アプリ「モー・プロム（Mor Prompt）」での接種予約受付、官民の病院や民間企業と連携した接種場所の設置など、接種体制が整い始めているとし、「月1,500万回ペースで接種してコロナ戦争に打ち勝たなくてはならない」と述べています。



【セントラルプラザ・ラプラオに開設された接種会場を視察するプラユット首相】

（出典 5月13日 PR Bangkok ホームページ）

ワクチン調達については、保健省が米国製薬大手ファイザーのワクチンを500万～2千万回分（250万～1千万人分相当）、ロシアのスプートニクVと米国のジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）、中国の科興生物製品有限公司（シノバック・バイオテック）のワクチンを各500万～1千万回分調達することを政府に提案しています。政府はこれまでに、英国のアストラゼネカとシノバック・バイオテックに約6,300万回分を注文しており、今年末までにタイの人口の

7割に当たる5千万人に接種する目標を掲げています。

首都バンコクについては、向こう2か月で、70%に当たる500万人に中国のシノバック・バイオテック製と英国のアストラゼネカ製のワクチンを接種する計画です。感染拡大が続き、レッドゾーンに指定されているバンコクでの感染抑制につなげる狙いです。

ワクチン接種の希望確認と、接種希望人数等を把握するために、社会保険庁は全社会保険加入企業に対しアンケートを実施しています。現在、優先度の高い人達を対象にワクチン接種が始まっており、このアンケートはその後の接種についての需要調査の一環となりますが、できるだけ精度の高い情報を収集し、迅速で無駄のない接種を進めるために政府は様々な努力をしています。ワクチン接種について、今のところ国民からの不満はないように思われます。



【（上）ワクチン接種を外で待つ人々

（下）病院外でのワクチン接種】

（出典 タイラット紙）

## ＜外国人への対応＞

政府は、タイ国内に居住する全ての外国人にもワクチンを無料で接種する準備を進めており、外国人向けのワクチン接種予約アプリを投入し、予約なしの飛び込み（ウォークイン）でも外国人を受け付ける計画です。案内や説明の関係から、会場は言語ごとに分ける方向で検討しています。